

果敢人（コーカン）の社会的と文化的特徴に関する予備調査

- (1)現代ミャンマー伝統文化芸術に関する探訪
- (2)北タイの村落における果敢（コーカン）人と雲南華人居留民の生活現状調査

平成 25 年入学

派遣先国：中国，ミャンマー，タイ
顧 平原

キーワード：ミャンマー，伝統文化芸術，北タイ，村落，雲南人，果敢（コーカン）人，生活状況

対象とする問題の概要

北タイの山地集落は北タイ，ミャンマー・シャン州と中国雲南省の国境域に位置しているため，民族と文化的多様性に富んでいる。また，ミャンマー・シャン州から多くの人々（特に，果敢人や雲南系中国人）が北タイ領域の村落へ移住してきたことも研究の注目を集めているが，現在の研究には，これらの果敢人たちの文化的・社会的特徴やその周辺の他民族集団との文化接触についてはまだ十分な整理が行われていない。したがって，ミャンマー国内のマジョリティー文化との接触や位置づけを研究するため，現在ミャンマーの伝統文化と芸術の現状とそれに関する研究状況を知ることが役に立つのである。ヤンゴン市は，ミャンマーかつての首都（現首都はネピドー）でありながら，今でも全国の政治・経済・文化と情報交換中心地でもある。市内には，国内最大の大学図書館（ミャンマー伝統文化に関する大量の研究資料を所蔵する「大学中央図書館」(Universities Central Library)），ヤンゴン大学，シュエダゴンパゴダ（仏塔）や周りにある伝統文化と芸術の手工芸品市場を有している。故に，現在ミャンマーの伝統文化と芸術の現状とそれに関する研究状況を知るために，ヤンゴン市内の手工芸品市場と図書館で調査することが必要かつ重要である。それに，ミャンマーに居住する果敢人と中国系雲南人の生活と文化的特徴に関する研究（博士課程期間の研究テーマ）を進めるため，果敢人のタイへの移住史と生活の現状を了解することと，彼らとの友好的個人関係および社会的ネットワークを築くことが必要である。

研究目的

(1)ミャンマー国内の果敢人の地域文化とビルマ文化関係(他民族集団との関係を含む)に関する比較・分析の予備研究として，ミャンマー上座部仏教の文化表象を理解することを目指し，今日ミャンマー社会の伝統文化芸術に触れ・体験することが派遣の第一の目的である。研究成果を東南アジア諸国と中国の伝統文化・芸術との関係における比較・分析に役立てるため，研究手段として，ミャンマーの伝統的な絵画作品，彫刻（木製，石製），伝統音楽や劇などの収集と分析に着目する。さらに，派遣者が調査を通じてビルマ語の会話能力を高めることを期している。

(2) 来年，申請者が果敢地域で行う予定のフィールドワークに対する予備調査を派遣の第二の目的としている。調査手段として，北タイの村落に居住している果敢人と雲南系中国人の生活状況に対する，フィールドでの参与観察と現地住民や専門家を対象とするインタビューに用いる。

フィールドワークから得られた知見について

(1) 現在のヤンゴンの社会で流行している伝統風の音楽と劇の CD とビデオのデータや、専門家によって英語・ビルマ語で編集・記載された伝統文化に関する書籍を購入し集めたほか、ヤンゴン市内の伝統建物、販売される手工芸品、玩具、絵画と彫刻作品、宝石製品、衣装と記念品などの写真を大量に撮影できた(写真 1.1 - 1.8)。



写真 1.1 ヤンゴン市内の建物



写真 1.2 伝統衣装の売り店



写真 1.3 伝統人形



写真 1.4 伝統手工芸品



写真 1.5 少数民族風の記念品



写真 1.6 木製の彫刻作品



写真 1.7 貝殻製の手工芸品



写真 1.8 宝石製の絵画作品

ヤンゴンに暮らす知人，特にヤンゴン外国語大学に在籍している知人の紹介により，派遣者は市内最大の Bogyoke Aung San マーケット，国内最大のシュエダゴンパゴダ（仏塔），ヤンゴン市内の中華街・寺院・夜市，ヤンゴン大学，大学中央図書館それにヤンゴン外国語大学への見学・資料収集に行くことができた(写真 1.9-1.13)。



写真 1.9 ヤンゴン大学正門



写真 1.10 ヤンゴン外国語大学正門



写真 1.11 ヤンゴン市内ミャンマー華僑図書館



写真 1.12 ヤンゴン市内のある中国式寺院



写真 1.13 ヤンゴン市内にある夜の市場

派遣者はさらに地元住民と専門家を対象として、ミャンマー伝統文化・芸術（特に彫刻と絵画芸術）に対する保護と研究の状況についてインタビューを行った。最後に、ヤンゴン市の人々との日常会話を通して、ビルマ語を実際に使う機会があり、会話能力を高めることができた。

(2)派遣者がバンヤン (Ban Yang) , バンマイノーンブワ (Ban Mai Nong Bua) , バンファイナンクーン (Ban Huai Namkhun) , バンターンゴップ (Ban Tham Ngob) , ドィアンカーン (Doi Angkhang) , ベン・ルアーン (Bian Luang) を含む幾つかの北タイ村を訪問した。現地での参与観察と専門家に対するインタビューを行った。それにより、これらの村々に多くの果敢人、雲南系中国人、ラフ人、リス人、アカ人とシャン人の移民たちが居住しており、民族・言語・宗教における高度な多様性を有していることを発見した(写真 2.1-2.8)。多くの果敢人と雲南系中国人が中国雲南省から上ミャンマー (例：シャン州など) へ、また北タイの村落あるいは都市 (例：チェンマイ県、チェンライ県、メーホンソーン県など) への移住経験を有することが分かる。現地の果敢人家族の生活様式は、世帯のなかの高齢者や壮年層が地元の子の農場で賃労働を行い、若年層が都市部 (例：タイのチェンマイ県、チェンライ県、台湾の高雄市や台北市など) で働く。教育に関しては、初等教育を地元で、高等教育 (高校や大学) を都市部で受ける、あるいはそのまま都市部で就労するケースが一般的となっている。しかしながら、村において果敢人家族の生活水準はが下回る状況が多く見られ、村により早く移住してきた他の民族世帯或いは軍隊出身者の世帯の水準に及んでいない。



写真 2.1 バンファイナンクーン村の中国式の部屋



写真 2.2 バンファイナンクーン村での地元住民インタビュー



写真 2.3 ドィアンカーン村の売り場



写真 2.4 バンヤン村の雲南式の鍋料理



写真 2.5 バンターンゴップ村にあるホテルの正門



写真 2.6 バンマイノーンブワ村にあるレストラン



写真 2.7 ベン・ルアーン村への風景



写真 2.8 ベン・ルアーン村にある中国語の中学校

今後の展開・反省点

(1)ヤンゴン市内のミャンマー華僑図書館で働いている現地インフォーマントによれば、ミャンマー伝統芸術、特にミャンマーの彫刻芸術に関して研究するミャンマー国内の専門家が少ないため、この領域では十分な整理がなされているとは言えない。故に、よりミャンマーの伝統芸術を理解するため、古代建築と彫刻や絵画に溢れている都市（例：マンダレーとバゴ（旧称：ペグー））へ調査に行くことが必要である。さらに、同テーマに関して植民地時代のヨーロッパ専門家によって収集・研究された資料をイギリス・ロンドンの資料館「the National Archives」で見つけることができるのである。一方、ミャンマー伝統文化に関する研究レビューはミャンマー国内の図書館で探し出すことが可能である。したがって、以上のような近年の追加資料を行う必要があると考えられる。

(2) まず、現地住民に対するインタビューを通して、初等教育状況の改善が地元住民に与える影響を認識した。具体的に、地元の学校がボランティア教師、教科書と学校設備などを含む教育資源への支援を非常に希望していることが分かった。また、北タイにあるこれらの村落には多くの果敢人が定着している。故に、果敢人の生活状況に関するより深い理解を得るためにも、申請者は2014年3月から北タイの村落を改めて訪問し、地元の初等教育学校でボランティア教師をする予定がある。このようにして現地と長期間の友好的かつ親密な交流をもってはじめて、地元の果敢人との信頼関係を築くことが必要であることが考えられる。